



齋藤賢さんが満100歳に

長寿を祝い、知事賀寿などを贈呈



前後町長から賀寿を受ける齋藤さん(右)

1月7日に満100歳の誕生日を迎えた齋藤賢さん(市沢)への知事賀寿贈呈式は同日、自宅で行われました。

樋山公則会津保健福祉事務所副所長が、知事賀寿と記念品の会津漆器の木杯を贈呈。続いて前後町長と戸田忠義町老人クラブ連合会長が賀寿や記念品を贈った後、ひ孫の新城葵子さんが花束を手渡しました。

齋藤さんは10人の子どもと18人の孫、26人のひ孫、1人の玄孫に恵まれました。長生きの秘訣は、毎日の晩酌と家の周りの清掃などで体を動かすことだそうです。

中学生たちがボランティア

こども園で雪かきと雪だるま作成



雪だるま作りに取り組む生徒ら

スキー宿泊学習で本町を訪れた茨城県東海村の東海南中の生徒らは1月25日、さくらこども園で除雪などのボランティアを行いました。

同校のスキー宿泊学習は、1年生を対象に1月23日から25日まで実施されました。同園には66人が訪問し、屋根から落ちた雪を片付けたほか、園児を喜ばせようと、園庭に積もった雪で雪だるまを作りました。

作業終了後、土屋重憲教育長が同校に感謝状を贈呈したほか、園児らが手作りのプレゼントを生徒一人一人に手渡しました。

博士の生家を鮮やかに飾る

野口英世記念館恒例のだんごさし



色とりどりのだんごなどを飾りつける児童

翁島小学校の1年生と3年生の合わせて25人は1月11日、野口英世記念館内の博士の生家で、豊作や家内安全などを祈る小正月の伝統行事だんごさしを体験しました。

八子弥寿男館長が「みんなが元気で病気をしないよう、生家が災害などにあわないように祈りながらだんごをさしてください」とあいさつ。その後、児童らは居間に設置された大きなミズキの木に、紅白や緑・黄色など色とりどりのだんごやふなせんべいなどを飾りつけました。きれいに飾りつけられたミズキの木は節分まで置かれ、来館者らの目を楽しませました。

補助金の適正執行のために

補助金等適正化委が審議結果報告



前後町長に審議結果を手渡す鈴木委員長(右)

町補助金等適正化委員会の鈴木新一委員長は12月27日、前後町長のもとを訪れ、委員会の審議結果を報告しました。

審議結果では、補助金が税金などの貴重な財源でまかなわれていることをふまえ、繰越額が多い補助事業者には補助金の交付を見合わせることや補助金の積算根拠を十分精査すること、補助金の交付を必要最低限とすることなどについて指摘。一方で、補助事業の効果が確実に見込まれ、町の振興に寄与する場合には、予算の範囲内で補助金の増額を検討することが盛り込まれました。

これに基づき、25年度補助金の適正な執行に努めていきます。

年頭に無火災・無災害願う

町消防団幹部らが出初め式を挙行



町民の安心、安全な生活を祈願しました

今年1年の無火災、無災害などを祈願する出初め式は1月6日、町内の諏訪神社で行われ、町消防団幹部など約50人が出席し、玉串をささげて町民の安全を祈願しました。

神事後、前後町長が「町民の生命、財産を守るという崇高な使命のもと、なお一層の尽力をお願いしたい」とあいさつ。土屋孝彦団長が「職務を全うする自覚を新たにするとともに、地区住民の安全を守り、併せて防火意識の高揚に努めてもらいたい」と団幹部らを鼓舞した後、鈴木武喜町議会議長、小檜山善継県議らが祝辞を述べました。

縁起物などを求め長蛇の列

新春恒例の十三日市が開催される



縁起物などを求める多くの買い物客でにぎわった商店街

新春恒例の初市「十三日市」は1月13日、中央通り商店街で開かれました。オープニングセレモニーでは、大川原勝人実行委員長が「十三日市をきっかけに町の活性化を図りたい」とあいさつ。神事、鏡開きや猪苗代芸能保存会の太鼓演奏の後、先着150人に福袋がプレゼントされました。

通りには起き上がり小法師、風車やだるまなどの縁起物や飲食物などの露店が並び、多くの買い物客でにぎわいました。また、昨年末に町商工会が販売したふるさと商品券のお年玉プレゼント抽選会も開催され、当選者の発表に会場が沸きました。